

COVESA

Accelerating the future of connected vehicles

COVESA で コネクテッド ビークル
の可能性を解き放つ

内容

1.1 COVESA の紹介	2
1.2 コネクテッド ビークルの課題	2
課題 1 クルマのデジタル体験を最新に保つ	4
課題 2 ユーザーのデジタル ライフを受け入れる	5
課題 3 より 広範なモビリティ ソリューションへ自動車を統合する	5
1.3 COVESA コミュニティに参加する	6

1.1 COVESAの紹介

COVESA はコネクテッドカーとその関連技術にフォーカスした技術アライアンスであり、メンバー主導のオープンでグローバルなコラボレーションによってオープン スタandard を確立していくアプローチを重視しています。我々はこのコミュニティ活動を通してコネクテッド ビークルの可能性を最大限に引き出したいと考えています。

COVESA は、産業界主導の協動的でオープンなアプローチによって自動車向けのソフトウェア ソリューション開発を推進してきた GENIVI から発展した団体なので、産業コミュニティとしての経験値が豊富です。私たちはコネクテッド カーの可能性を最大限に実現するためには「オープンであること」が不可欠な要素だと考えています。COVESA メンバー企業は「ガイダンス」「仕様書」「オープンソース ソフトウェア」、および「商用ソリューションの開発に有用な関連資料」を業界に提供するプロジェクトをリードしており、コネクテッド ビークルを支える基盤技術の構築を推進しています。

1.2 コネクテッド ビークルの課題

私たちの活動は、ユーザーの期待に大きく突き動かされる形でデジタル変革を迫られている自動車業界が、近年直面している以下の「機会」と「課題」に密接に結びついています。

- クルマに関わるデジタル体験は、常に進化し続けなければならない
- クルマでの体験は、ユーザーのデジタル環境とシームレスに統合されなければならない
- クルマは、ソリューションとサービスを提供するコネクテッド モビリティ エコシステムの一部でなければならない

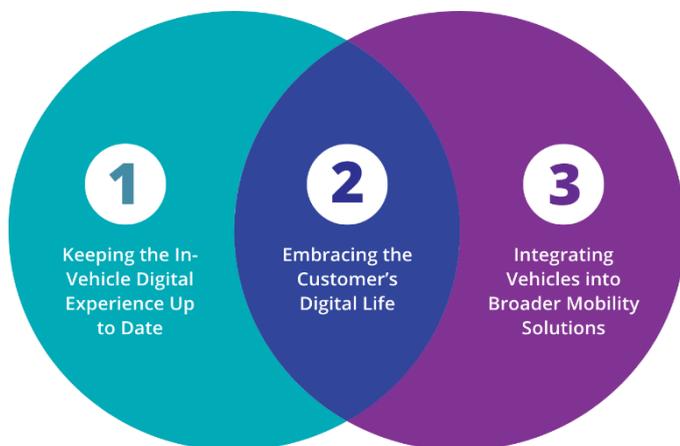
これらの期待に応えるため、デジタル トランスフォーメーションがもたらす市場の変化を私たちのコミュニティ活動に適宜取り込みながら、ユーザーに革新的な車両体験との相互作用を提供していくためのテクノロジーに重点をおいています。

COVESA は OEM、サプライヤー、業界パートナーが内部で抱える開発リソースや影響力には限りがあることを理解しています。ユーザーの期待に応えていくには、自動車業界の内部で開発したものだけでなく、他のエコシステムから提供されるソリューションを統合していくことが必要になることも珍しくありません。

進化するユーザーの期待に応えるためには、拡張性があり、かつメンテナンスも容易なソリューションが不可欠です。私たちは、これを実現するに以下の要素が必須であると考えています。

- 適切な手続きで制定され、明文化された 堅牢な「データモデル」
- 最新の「業界フレームワーク」と「標準化されたAPI」の維持
- サードパーティと簡単に統合できる「軽量で柔軟なソリューション」

ユーザーのデジタル化への期待に対応していく上での基盤となる作業を開始するため、COVESA は以下の3つの中核的な課題に焦点を当てています。



課題 1 – クルマのデジタル体験を最新に保つ



自動車の電気/電子アーキテクチャは長年にわたって進化してきており、OEM の実装はそれぞれ異なっています。そのため長期的なサポートを一律に提供していくのは困難で、コストがかかり、非効率的です。さらに「デジタル エクスペリエンスの変化のペースは、従来の自動車システムと比較して桁違いのスピードで進行している」ことから、自動車の耐用年数の期間を通して継続して「頻繁な更新」と「長期サポート」を提供していくことはますます困難になっています。COVESAは「デジタル エクスペリエンスに関わる車両の機能を、特定の技術的実装から抽象化すること」が核心であると考えています。これは「車両ネットワーク信号を、標準化され管理されたデータ分類法（COVESA VSS）を使用して、OEM に依存しない標準化されたデータモデルに変換すること」によって実現可能です。その結果、デジタル開発はカプセル化され、プログラムを実行するハードウェアから抽象化されます。これにより、さまざまな開発手法の適用が可能になり、開発者が車両システムの中核部分の実装の複雑さを理解する必要がなくなるのです。

課題 2 – ユーザーのデジタル ライフを受け入れる



現時点で、既にユーザーの日常となっているデジタル ライフをクルマのデジタル体験に統合するには Android Automotive(AOSP)などの「ホスト型OS」を統合するか Apple CarPlay やAndroid Auto などの 「プロジェクションモード」 をサポートするソフトウェアをインテグレーションする必要があります。この課題に対する COVESA の取り組みの一例を紹介します。最近結成された「AOSP アプリケーション フレームワーク標準化エキスパート グループ」では、OEM による AOSP の実装が開発者のデバイスへのアクセスやアプリケーションを配信する際に「一貫性のあるインターフェイス」を持つように提供取り組んでいます。その目的は「AOSP アプリ開発者に OEM を横断した一貫性を提供すること」です。

課題 3 -より広範なモビリティ ソリューションへ自動車を統合する



シームレスなカスタマージャーニーの実現には、複数のデータソースからのデータ要素が必要です。データ要素を効果的に組み合わせることができるかどうかは、複数の業界で共通に利用できる「整合性のあるデータモデル」が存在するかどうかにかかっています。COVESA は非競争領域の知見や教訓を共有していくために、他のオープン コミュニティとの連携やパートナーシップの確立に取り組んでいます。コラボレーションを助長しメンバー企業の積極的な貢献を促進することで、業界横断的なデータモデルを整合させ、開発者のコミュニティが革新的なソリューションを創造できるようにすることを目指しています。



**Drives
Innovation**



**Supports Future
Business**



**Enables
Scalability**



**Vehicle
Signal
Specification**



**Faster Time to
Market**

1.3 COVESA に参加する

COVESA はオープンなコミュニティなので、メンバーが単独では現実的な解決や拡張が不可能な課題の解決に取り組むことができます。ここで紹介した3つの課題は COVESA が現在積極的に取り組んでいるコラボレーションの基盤となるものです。意識的に明確な初期スコープを設定することで、COVESAは、SDV（Software-Defined Vehicle）を含む新規構想への自動車産業界の貢献を効率的に調整することができます。私たちの意欲的な目標の達成に寄与する、すべての積極的な貢献と協力を歓迎します。

この重要な取り組みを進めるには、あなたの意見が必要です。COVESA への [参加](#) を是非ご検討ください。